

佐藤信淵の墓



〔登録年月日〕平成六年一月九日  
 〔種別〕史跡（墓・碑）  
 〔名称〕佐藤信淵の墓  
 〔点数〕一基  
 〔所有者等〕松應寺  
 〔所在地等〕高円寺南二―三〇―一

## 佐藤信淵の墓

墓碑は総高一一五・八cm、安山岩の楕形板型塔で、台石は二段になっている。正面には信淵の友人横田敬忠の撰文になる碑文が刻まれ、裏面は中央に信淵の戒名（真武院賢剛徳裕居士）・没年・享年、向かって右側に長子伸昭の戒名（雲林院晴岸江月居士）・没年・享年を記し、左側に昭和一〇年（一九三五）九月、永代回向料、織田雄次（信淵の研究者織田完之の継嗣）と追刻している。

佐藤信淵は明和六年（一七六九）秋田に生まれ、江戸時代の化政期より天保期に活躍した経世家で、天文・地理・軍事・国学等に通じ、著作には『経済要録』のほか、『天柱記』『農政本論』『垂統秘録』などがある。信淵は一六歳で宇田川玄隨に医学を学び、京橋柳町（中央区）で開業、文化一二年（一八一五）には平田篤胤に師事し思想的影響を受けた。同年吉川神道の吉川源十郎の門下となったが、神道講談所の再建をめぐって事件に連座し翌一三年江戸払いとなり、弘化三年（一八四六）に赦免されるまで三〇年間に及んだ。嘉永三年（一八五〇）一月六日八二歳で没し松應寺に葬られた。松應寺は明暦二年（一六五六）浅草（台東区）に開創された曹洞宗の寺院で、大正七年（一九一八）現在地へ移転してきた移転寺である。

幕末の経世家として「家学」を基に農政学をはじめ多方面にわたる思想営為を展開した佐藤信淵の墓所として重要である。

【文化財所在地】

